



重文指定の 灯台 どうだい？

③ 不動まゆう

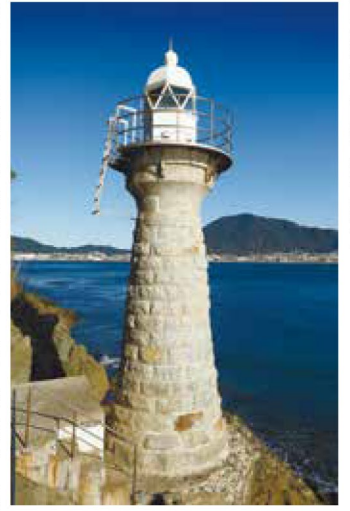
むつれしま
六連島灯台
(山口県下関市)

無塗装の石造り…礁標も残った

六連島灯台が重要文化財に指定されると聞いた時、正直ちょっと驚いた。もちろん歴史的に重要な灯台であると認識していたが、慎ましやかな存在だと感じていたからだ。

場所は関門海峡の西に位置する周囲4.5キロ弱の小さな島。足となる定期船は1日に4〜5往復して

おり、乗船時間も20分ほど。それほどアクセスが悪くないのだが、私が訪れた時、港から灯台までの道で観光客はおろか島民に会うこともなく、静



旧祖礁標（旧金ノ弦岬灯台）

かに時を重ねている場所は、美しく風格が増していることだろう。

また灯台の灯籠部分には錆が目立ち、貫録を感じは珍しい（現役は無塗装灯台は他に角島と男木島灯台の2基のみ）が、シルエットは前回紹介した

部塔灯台と「双子灯台」と表現されるほどよく似ている。それぞれ関門海峡の東と西の入口に位置し、どちらもR・Hブランドンの設計と聞けば納得がいく。

また、関門海峡の浅瀬を知らせる目的で岩礁に建てられた旧祖礁標も、六連島灯台の歴史を語るのに欠かせない存在として重要文化財の附に指定された。大正時代に現在の場所である彦島の南に移築され、金ノ弦岬灯台に名前を変えて平成12（2000）年まで運用されたのち廃灯。よくぞ撤去せず残してくれていたものだ。下関市の指定有形文化財となっていて本当によかった。今回の附指定により、当初の名称に戻り新たに歴史を紡いでいく一員となった。

六連島灯台



(つひ)